



紀州材ネームプレート

「やまびこ通信」

第23号 令和8年6月発行



フラワーアレンジメント(アセビ・カヤ他)

■ 令和8年度試験研究がスタート

本年4月の異動により、私を含め5名が林業試験場に着任し、新たな体制での試験研究がスタートしました。

さて、本年度は、「人口減少や気候変動に適応した、持続可能で心豊かな和歌山」「個人が尊重され、あらゆる分野で個性輝く和歌山」を、めざす将来像とした「和歌山県総合計画」の初年度となります。

その実施計画【アクションプラン】の実現に向けて策定しました「和歌山県森林・林業総合推進計画」(2026~2030年度)に基づき、I 循環型林業の推進と健全な森林づくりのための森林管理手法・技術の確立

◇林木育種の取組

II 紀州材の利用拡大のための技術の確立

III 活力ある山村づくりのための特用林産物の

持続可能な生産技術の確立

を当試験場の重点施策とし、主に以下の試験研究や技術開発に取り組んでまいります。

＜経営環境部・中辺路試験地＞

建築資材メタルラスを用いた獣害防除技術の開発や和歌山県産無花粉スギの創出、花粉症対策母樹園の整備など

＜木材利用部＞

紀州ヒノキの横架材利用や県産スギ、ヒノキの大径材に適した加工・利用技術、紀州スギ厚板(アカネ材活用)の下地材利用など

＜特用林産部＞

アセビ、イタドリ、マタタビ、ワサビなどの栽培技術の開発や、山村地域の新たな収入源となる可能性があるヒダリマキガヤの実の収穫に関する調査

今後とも、県行政と一体となり、気候変動や生産者減少等の変化による現場の課題を的確に捉え、森林・林業及び山村の振興に資する取組を推進してまいりますので、関係する皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

(場長 原 賢一郎)



ヒノキ特定母樹採種園(田辺市)

■ 令和8年度から始まる新規課題

1 農林水産業競争力アップ技術開発事業 (R8~10)

◎紀州スギ厚板を活用した高耐力水平構面の開発(木材利用部)

大径化した紀州スギの有効活用による林業の活性化を図るため、紀州スギ厚板を用いた水平構面(床面)を作製し、面内せん断試験を行うことで、構造用合板を用いた場合と同等以上の耐震性能を有する工法を開発します。



2 新シーズ探索基礎研究(R8)

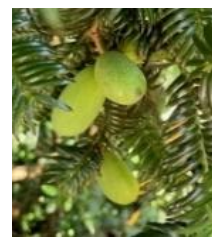
①植栽密度と材質の関係性評価に関する予備試験(木材利用部)

近年、低密度植栽による低コスト化の期待が高まっていますが、原木の密度や強度性能等に影響を及ぼす可能性があります。そこで、植栽密度と材質の関係について調査します。



②ヒダリマキガヤの実の収穫および活用に関する研究(特用林産部)

紀美野町の貴重な「ヒダリマキガヤ」の実は精油やジンへの活用が期待されます。樹齢約500年の大木が多く、収穫することが困難なため、地域と連携し、効率的な収穫方法の予備調査を行います。



3 新シーズ開発基礎研究(R8~12)

①森林・林業に影響を及ぼす病害虫に対応する研究(経営環境部)

外来生物の侵入や気候変動により、新たな病虫害が生じてきています。また、林業の病虫害防除技術は古くに確立されたものが多く、そのまま実施できないものも増えてきています。そこで、最近の現地調査、過去のデータ、他地域のデータから、対策方法の見直しを進め、新たな研究課題の創出に取り組んでいきます。



②県産スギ、ヒノキ大径材に適した加工・利用技術に関する基礎研究（木材利用部）

県内のスギ・ヒノキは長伐期化に伴う原木の大径化が進んでいることから、大径材の性質に応じた加工・利用技術の検討及び各種製材品の性能評価を行うことで、大径材の利用促進を目指します。



4 長期的基礎研究（R8～12）

①次世代優良品種の創出と選抜（スギ・ヒノキ）（経営環境部）

県内の人工林は本格的な利用期を迎え、主伐後の再生林に必要な苗木の需要が高まり、次世代の苗木には優れた材質に加え、コスト削減と花粉症対策に資する品種の開発が求められています。このため、県内の検定林で蓄積されたデータを活用して、特に成長が優れた個体を特定母樹候補木として選抜し、花粉症対策にも資する次世代優良品種の創出を図ります。



②管理水準の低下に対応する森林育成手法を構築する研究（経営環境部）

人口減少による森林管理水準の低下に対応した森林の育成手法を検討しておく必要があります。針葉樹人工林ではスギ、ヒノキの特定母樹を用いた再生林技術に関する研究、過密壮齢人工林を長伐期林に誘導するための研究、広葉樹林では資源量に関する調査、郷土樹種クマノザクラに関する研究を行います。



③気候変動等に対応した特用林産物の持続可能な省力化・安定生産に向けた基礎研究（特用林産部）

林業産出額の5割以上を占める特用林産物は山村の重要収入源ですが、生産者の高齢化や、未利用資源の栽培技術の確立が課題です。そこで、サカキやワサビのほか、今後有望なマタタビやホンシメジなどを対象に、持続可能な生産技術を開発し、安定生産と副収入確保につなげます。



5 林業普及情報活動システム化（R8～10）

◎アセビの持続可能な生産に向けた調査（特用林産部）

近年、切り枝市場が拡大し、県産アセビの需要が増えていますが、山採りによる資源減少等が懸念されます。その安定生産の対策として、市況の現状や伐採後の回復状況を調査し、持続可能な生産技術の確立を目指します。



■各部の担当業務

◆経営環境部

新免 哲則：部長
法眼 利幸：病虫獣害対策・森林環境
仲 兼永：育種・林業機械
鈴木 大輔：苗畑管理・施設管理・研究補助
加世田 匠：育種・森林環境
濱田さつき：育林・林業経営

<中辺路試験地>

松村 彰文：育種・育苗生産
西原 康人：優良種苗育成

◆木材利用部

山裾 伸浩：部長
坂本 淳：庶務担当 林業普及指導員
松久保 康輔：木材強度・木質バイオマス
栗原 香名子：木材加工・保存・乾燥

◆特用林産部

坂口 和昭：部長
是澤 哲生：山菜、きのこ、紀州備長炭
杉本 小夜：花木の栽培管理

■新たなスタッフ

よろしくお願ひします。



是澤主任研究員



仲主任研究員



加世田研究員



濱田研究員

編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬 1504-1

TEL：0739-47-2468 FAX：0739-47-4116

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/006/>

※「やまびこ通信」は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。